

こんなとき、



漢方薬 が味方になります！

漢方医が伝授する実践的な処方ノウハウ

連載を始めるにあたり

東邦大学医療センター大森病院東洋医学科 田中耕一郎

漢方は東アジアの日本、中国、韓国、台湾で普及している医学体系である。現在、中国にも韓国にも、“漢方医”と“西洋医”という異なった二つの医師免許がある。そして漢方の病院と西洋の病院とが別々に設立され、独自に医療が行われている。患者は自身の判断でどちらかを選択するようになっている。一方、日本では、大学医学部では現代医学の教育を主とし、免許は一つに統一されている。そして、卒後の研鑽を通じて、一人の医師が両方を駆使することが可能となっている。これは日本独自の特色であり、現代医学に漢方という他の選択肢を織り込むという点で、世界的にみれば理想の環境にある。中国は、日本の今の状況から学ぼうとしているくらいである。

私が漢方を専門とするなかで感じているのは、「ロジックは人文科学的であるが、一定のソフトを入れれば運用できる」ということと、「漢方を通じ、患者を観る洞察力がより深まり、臨床を味わい深いものにしてくれる」ということである。

今回の連載では、以下の点に留意した。

- ① できるだけわかりやすく、かつ体系の奥行きを感じ、以後の研鑽に生かせる内容にする
そのため、専門的な用語解説や発展編をコラムとし、症例はできるだけ簡潔に記載した。
- ② 総合病院での紹介を受ける形式にして、漢方治療により差別化ができる分野に焦点を当てる
実際にわれわれ漢方医がどのような流れで、どのような患者を診ているのかを紹介することで、漢方を使用するタイミングの理解につながればと願っている。

本連載が、漢方を初めて学ぶ初期研修医のみならず、ベテラン内科医の漢方診療の一助になれば幸いである。